

伊藤滋会長 特別講演開催レポート

2019年6月1日開催

去る6月1日（土）に、日本危機管理士機構主催で、伊藤滋会長（早稲田大学特命教授）をお迎えし、特別講演を開催致しました。『東日本大震災から7年後』というテーマで、2018年7月20日～24日に行われた被災地の縦断視察から見た、被災地の7年後の復興状況について講演いただきました。



震災から7年経過した被災地全体の印象から始まり、福島県、宮城県そして岩手県別に復興状況について詳しく報告されました。

全体的にみると、原発事故を抱える福島県以外の津波の被災地では、復興の姿が見えつつある一方で、福島県における原発事故の被災地は、宮城県や岩手県の津波被災地とは異なり、あまり復興が進んでいない状況であり、復興の姿がなかなか見えてこないとのこと報告でした。

結びに、今回の調査では防潮堤や水門などの津波対策施設の進捗状況が目につき、完成後の全体像が想像できるようになってきたことが語られました。

高く長く続く防潮堤やその他の多くの施設の完成は復興の象徴であり、その完成が待たれます。